

# エコプロダクツ2005

「環境」就職・進路相談会 in 東京

## 実施報告書

### CONTENTS

#### 序にかえて

人それぞれの「環境」就職・・・・・・・・・・2

#### 報告・評価

・企画概要・・・・・・・・・・4

・シンポジウム 議事録

「街でイキイキ！環境の仕事」・・・・・・・・6

・実施報告 アンケート集計結果  
・・・・・・・・・・16

・アンケート集計の結果から読み解く、  
環境の仕事を目指す大学生の“不安”  
・・・・・・・・・・18

・社会人カウンセラーのアドバイスから  
分かる、“新卒への期待”とは  
・・・・・・・・・・20

・カウンセラーからのメッセージ  
・・・・・・・・・・21

#### 次回予告



2005.12.17

エコ・リーグ

www.eco-2000.net

# 環境と 就職を 考える。

人それぞれの「環境」就職

序にかえて 野口 朋子

私は、環境問題について何かしたいと思って大学に入学し、環境サークルに所属。大学時代は勉強はそこそこに、サークル活動を中心に過ごした。サークル活動は楽しかったし、良い仲間ともたくさん出会え、その時間はとても貴重だったと思う。ただ、大学選びをもしかしたら失敗したかも・・・と思ったことが、入学後に何度もあったことも事実だ。

高校生だった私は、環境問題について学びたい・・・と漠然と考え、どういったことができるのかを自分なりに調べた。その時、「環境」というキーワードで引っかかってきたのは理系の学部ばかり。私はその中で興味を引く大学を選んで受験し、運良く入学。その大学で勉強できることとなったのだが、しかし、大学に入ってから気がついたのは、環境という分野の広さ、環境へのアプローチの多様さといったもの。私には、科学的なアプローチでの環境問題の解決しか見えていなかったのだが、実際には、政治的、経済的、

法律的など、文系的な多様なアプローチも存在する。もし、他のアプローチが高校生だった私に見えていたら、もしかしたら違う道を選んでいたらかもしれない。

就職先選びも同じことだと思う。社会の環境意識が高まってくるにつれ、就職や進路を考える上で環境関係の仕事に就きたいと漠然と考える大学生が増えてきた。しかし、「環境」関係の仕事とは一体何を指すのだろうか？環境関係の企業で仕事をするのか？環境コンサルタントになるのか？それとも、環境NPOで働くことだろうか？私の答えは、「NO」である。もちろん、そういった職業が環境関係の仕事であることを否定するのではない。「環境」は、社会の全てに関わっている。自分がどう環境に関わっていけるか、関わっていきたいかを考えることで、一見関係ないように見える仕事でも、環境関係の仕事になるのではないかと思うのだ。例えば、メーカーで物作りの現

## 開催レポート

## 「環境」就職・進路相談会2005 in 東京

開催日：2005年12月17日（土）10:00～17:00

第1部：シンポジウム「街でイキイキ！環境の仕事」

第2部：「環境」就職・進路相談会

開催場所：日経「エコプロダクツ展」内 東京ビッグサイト

参加費：無料

参加者数：384名（第1部・第2部合わせて）

社会人カウンセラー数：51名（キャリアカウンセラー2名含む）

広報：全国の800大学・キャンパスの就職相当課宛にポスターを郵送、各メーリングリストに転送

予算規模：90万円程度



場にいたとすれば、廃棄物削減は絶対に出てくる問題である。その現場における環境対策を更に前進させる努力をすることも、環境の仕事の一つではないかと考えている。また、会社で得たスキルを環境NGO/NPOで活かすことで、仕事が「環境」につながる。

就職活動を始めたばかりの頃は、ある道しか見えないことも多い。しかし、その道しか見えずに進んでしまっただけで後悔することは、本人にとっても、また、企業にとってもマイナスである。私は、実際に仕事をしている環境マインドを持った社会人と話をすることで、自分の見えていなかった道が見えるきっかけにしてほしいという思いでこの「環境」就職・進路相談会に関わっている。私が就職活動をした時も、最初は「環境」という言葉のつく職業、もしくは、「環境」に取り組んでいるイメージの強い大企業ばかりが目についた。しかし、環境的なイメージが強い大企業に入社するのは難しく、更に入社してもいわゆる

社会で言う「環境の仕事」につける確率は少ないことがわかってきた。そしてその頃、それまで全く興味なかったシステムの仕事を知り、結果的にはシステム・エンジニアという職を選んだ。社会を変えるために有効な道具になりうる情報というものを、振り回されずにうまく利用する技術を身につけたい、そしてそれを環境活動に活かしていきたいと考えた結果である。結局、今はSEという職からは離れたが、その経験とそこから得た知識はとても貴重であり、私の財産となって活きている。

繰り返しになるが、「環境」は社会の全てに関わっており、どう関わっていくかは人それぞれである。「環境」就職・進路相談会において、社会で活躍する様々な人の環境への関わり方を知って、自分なりの関わり方を考え、環境マインドを持った社会人が増えていくことを願っている。

# 「環境」就職・進路相談会 とは

## 環境問題に関心のある学生は近年増加傾向

環境問題への関心が、大学生の中でも高まっています。日本の各大学にも環境関連の学部・学科・コース等が700以上設置され、また、大学の環境サークルも150以上設置されています。

「環境問題の解決に繋がる仕事」を目指し、仕事を通じて環境問題に携わりたい、という学生も年々増加しています。

## しかし、環境関連の仕事に対する情報は不足

環境の仕事には関心があるが、漠然としていたり、イメージのみで仕事を考える学生が多いのもまた事実です。逆に言えば、関心のある学生数の増加に比べて、環境問題に携わる仕事の情報は不足していると言えます。

当企画の過去のアンケートを見ても、「エコプロダクツ全日にかけて開催していただきたい」「このようなイベントをたくさんやって欲しい」との声を頂いております。

## 環境分野の集団OB訪問、「環境」就職・進路相談会を開催！

そのような背景を元に、エコ・リーグでは、意識の高い社会人と学生が手を取り合って、「環境の仕事」のリアリティをより多くの学生に知ってもらおうと、環境就職と進路についての相談会を、10年前より開催しています。

その特徴は、極めて「OB訪問」に近く、採用には直結しません。

環境問題への想いは人一倍ある。でも、何が出来るのか分からない。

そんな学生に対して、社会人がその想いを受け止めます。

## 企画のねらい～2つの環境就職

当企画は、大学生への仕事情報の提供を通して、環境マインドを持った企業を増やすことを目的としています。

環境マインドを持った大学生が、環境マインドを持った会社に就職し、その取り組みをより強力にする「リニア型」の環境就職、環境マインドを持った学生が、環境マインドがない会社に就職し、中から変える「クロス型」の環境就職があります。どちらも、「単にそれっぽい就職をすること」ではなく、中に入ってからの個人の想いや姿勢が重要となります。

リニア型環境就職: 環境マインドありの学生 環境マインドありの組織

クロス型環境就職: 環境マインドありの学生 環境マインドなしの組織

具体的には、当企画の趣旨に賛同して頂いた、環境マインドを持った社会人有志カウンセラーが、各机にて大学生の悩みに答えます。

カウンセラーは、様々な業界の企業・行政・NPOなどが集まります。(社名は非公開ですが、誰もが知っている大企業から、先進的なオンリーワン事業を展開するベンチャー企業、NPOまで様々です。)

インターネットでは得られない、ナマの情報をたくさん得られるチャンスでもあります。その後の追跡調査によると、カウンセラーの企業に就職した事例もあります。



## シンポジウム

環境部署で仕事をしたいと思っている学生が年々増えている。果たして環境部の仕事にはどんなものがあり、実態はどうなっているのか？どの様な能力が必要とされているのか？といった疑問が就職活動を始める際にはでる。それらの疑問について実務者の日常業務を学び、環境部ひいては環境の仕事の実際を理解してもらう。

## 「環境」就職・進路相談会

環境をテーマに就職や進路を考えている大学生・院生を対象に、現場で実際に環境関連の仕事をして働いている社会人の方とテーブルを囲み、話をする機会を提供する。環境関連の仕事をしている方の就職観や仕事の実態などを直接聞くことで、今後の就職活動の参考にしよう。

# 企画の6つの 特徴

## 公益性

主催団体のエコ・リーグ（全国青年環境連盟）は、1994年に生まれた青年を主体とした環境団体のネットワークです。この10年間、いっさいの営利・政治・宗教の活動を排除してきました。

また、当企画のスタッフは全て有志であり、社会人カウンセラーも、当企画の趣旨に賛同し、個人として参加して頂いており、所属する組織の利益を目的としたものではありません。

## 独自性

採用には直結せず、あくまで仕事情報の提供に徹する当企画は、広告代理店等営利企業には不可能です。また、主催団体エコ・リーグの、人脈と信頼に基づいて参加していただく社会人は、本年だけでも4地域合わせて100名以上になります。

## 先進性

1995年より10年間開催しており、これまでに4500人以上の参加者を迎えております。また、のべ700名以上の社会人に賛同して頂き、カウンセラーとしてご協力いただいております。

環境問題そのものが、まだ一般的に認知されていなかったころから、人生の大半を費やす「仕事」と融合させたNPOによる当企画は、日本初です。1999年には環境省（庁）の環境白書にも紹介されました。

## 拡張性

1995年より東京で初開催で、98年より関西でも開催しています。以来、毎年およそ1回の割合で開催しています。02年より東京では、日経「エコプロダクツ」内にて開催し、規模を拡大しました。04年より中部で初開催し、約80名の学生が参加しました。本年は、九州でも第1回を開催予定です。将来は、東北でも開催を望む声があり、全国展開しております。

また、東京では、カウンセラーを1人に絞り、より一つの業界を深く研究する「えこわーくセミナー」を開催。04年は月に1度開催（9月～翌6月）し、約100名の学生が参加しました。

## パートナーシップ

当企画では、社会人と学生とのパートナーシップが欠かせません。学生の行動力と社会人の人脈があって、初めて実現できます。なお、社会人カウンセラーからの評価も非常に好評で、「自分を見つめなおすよいきっかけになった」など、思わぬ効果も生まれています。

カウンセラーへのアンケート：「是非、また呼んでほしい」「都合が合えば出たい」が100%

## 人づくり

一つの企画を責任を持ってやり遂げることで、学生の意識はガラリと変わります。当企画に限らず、エコ・リーグでは、NPO等のインターンと違い、「テストがあるから」等の理由で、途中で誰かに任せることが出来ません。

そのため、企画への覚悟と責任が必要になりますが、その分、メンタル面・自発性での成長が顕著です。



## シンポジウム 講演録

# 「街でイキイキ！環境の仕事」

環境問題に関心があり、環境部署で仕事をしたいと思っている学生が年々増えている。果たして環境の仕事にはどんなものがあり、実態はどうなっているのか？どの様な能力が必要とされているのか？それらの疑問について実務者の日常業務を学び、環境の仕事の実際を理解してもらおう。

### パネラー

**津田 哲行 氏**

株式会社 花王 環境・安全推進本部

**田中 丈夫 氏**

株式会社東京電力 環境部 環境交流グループ

**松本 秀一 氏**

佐川急便 管理本部 C S R 環境推進部

### ファシリテーター（司会）

**小林 功英**

エコ・リーグキャリアサポート部部長 / キャリア・カウンセラー

司会 本日は皆さんと一緒に環境の仕事についての疑問を解き明かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

今回のテーマなのですが、環境の仕事について2つ掲げさせていただきました。1つ目は、環境の仕事はどこで出来るのか。2つ目は、環境の仕事はどうやってできるのか、です。この2つについて考えてみたいと思います。

まず、どこで、ということなのですが、当相談会で過去にアンケートを取りまして、企業の環境イメージランキングみたいなのを作ったのですが、毎年ダントツで1位なのはトヨタ自動車です。さて、ここで質問なのですが、環境イメージの高いトヨタに行くことが環境の仕事をする事だと言えるかどうか。

漠然と環境にいいことをしているからそこに行けば環境の仕事が出来る、というイメージを持っている方はいらっしゃいますかね。そういうイメージのみの就職活動をしていると、視野が狭まってきてしまうので、本日はぐっと視野を広げて欲しいなと思います。

それでは、皆さんの視野を広げていただくお三

方に来ていただきました。

まずは、プレゼンを聞いて欲しいと思います。それではトップバッターは花王の津田様よろしくお願ひ致します。

### 花王の環境の取組み

津田 花王の津田でございます。皆さんご存知のように、花王は化粧品など家庭用の製品や産業用の化学製品などを作って売っています。グローバルな取り組みも行っておりまして、世界でモノ



司会的小林氏（右）

を作ったり売ったりしています。環境では、我々が作っているのは消費財です。消費財メーカーとして商品を使っていたということ、環境負荷を与えているのだということ認識しています。例えば、汚れを落として身体を清潔にしたり衣服を清潔にしたりするわけですが、汚れと一緒に洗剤などの他のモノも流れていくということです。それを、できるだけ少なくするには環境負荷の少ない原料を選ぶとか、容器包装をできるだけ簡便にするとか、製造の時の環境負荷を下げるとか、省エネ・省資源に努め、廃棄物を削減することが考えられると思います。我々は、モノを作っている会社ですので、生産・使用・廃棄の商品のライフサイクルがあるわけですが、それと環境のインタラクションがある、という認識をしています。開発から廃棄物まで環境に対してはどんなことがあるかを常に考えています。

それから、社会に対してはどんな関係があるか、ということですが、それぞれのところで、環境と関わっています。つまりそれぞれの場面で環境の方から見るができます。その中で、環境部は何をしているのかを考えていただきたい。昔は、大きい洗剤だったのが、世界で初めてコンパクトな洗剤「アタック」を作りました。これにより、生産のエネルギーも減りますよ、輸送のエネルギーも減りますよ、そして消費者の方も買って帰るときもお父さんと一緒じゃないと重くて、大きくて持って帰れないものだったのが、お母さんだけでも持って帰ることができるとか、さまざまな効果がでました。当然廃棄物も減ります。こういうことをやってきました。また、洗剤の改良だけではなく、洗濯機メーカーや、世の中の家事の状況をみながら改良を行っているわけです。中身としては、コンパクト化することで使用量が少なくなって、特に界面活性剤は少なくなっています。それには、小さくして濃縮するだけなら固くなって水に溶けにくかったものが、モノを作るいろいろな技術で洗濯機の中でもより溶けやすくすることができた。そういう技術が入っているということです。容器についても、毎年毎年研究をして小さくしてきました。研究・製造・生産・使用・廃棄の中で、持続可能な社会を創ろうということで、やっています。それには、環境をライフサイクルで見てもたらどうなんですか、ということを最初の段階で考える。これは環境配慮洗剤



プレゼンをする津田氏

の例ですが、今言ったようなことをやっています。

ある本から持ってきたのですが、「生きることにとってなんら本質的ではない価値を求めることは、時に大きな環境負荷を伴う」と言えます。例えば、フランスから輸入した水ですとか、高級住宅ですとか、輸入食材をたらふく食べるとか、本当に環境的にどうなんですか、ということライフスタイルから考える。花王には消費者相談センターがありますが、お客さんからの色々な問い合わせ、指摘、相談ごとが入ってきて、システムに入れて、それを使って、また研究・改良をやっていくと。消費者との繋がりを作っていく。それには当然、環境の問い合わせが多くなっています。そういう視点がないと応えることが出来ない、そういう仕事もあります。

花王としては、美・清潔・健康をテーマにしてよきモノづくりをしていますが、安全第一、消費者から信頼される商品を作っています。また化学業界として、レスポンス・ケア活動を実施していき、それは自主的に環境・安全・健康を確保しようという活動です。それは同時にPDCAを回しながら、活動をしている、ということです。

会社の話は以上ですが、この機会に付録の一つ。環境の「環」とは、平たいもので中央の穴の半径と輪の幅が同じモノをいいます。同じような形状で他に「壁」というのがありますが、これは中央の直径と穴の幅が同じ。今度トリノで冬季オリンピックがありますね。先日、トリノのメダルの写真が新聞に載っていました。「環」ではなく「壁」のように見えました。それを見たときに、環境と「環」と絡めて考えることができるかどうか、

## シンポジウム

そういう感性が大事なのではないかと思えます。以上です。ありがとうございました。

司会 皆さんの中で一人暮らしの方はどのくらいいますか？ご自分で洗濯をすると思えますが、何気なく買っていた洗剤の中でもこれだけ環境の取り組みが出来る、ということが少しわかったと思えます。続いて、佐川急便の松本さん、よろしくお願い致します。

### 佐川急便の環境の取組み

松本 おはようございます、佐川急便の松本と申します。佐川急便としてよりも、物流業としての取り組みを紹介したいなと思えます。

まず、当社の規模を見ていただきたいのですが、従業員は4万名おります。車は約2万台。営業所は340あります。さらに社員ではないですが、アルバイトなど協力関係の方を含めると、20~30万人の規模になります。物流の大手といわれている日本通運、ヤマトさんは車両も人数も多い、ということが日本の代表的な物流業、です。当社は飛脚がマークになっておりますが、お客様のために荷物をちゃんと運ばせてもらいますよ、ということです。結論は何かというと、物流

は知らず知らず皆さんに近いところにありますよ、ということです。古くはピラミッドです。どうやって作ったんだろうと考えると、誰かが材料である石をどっかから運んできています。そういう行為が行われないとピラミッドも完成しないし、日本でも五重塔や仏閣などもそうです。材料を運ばないと完成しない。しかし、これら物流が近代的になったのはつい最近のことです。新橋・横浜間で鉄道の輸送が完成しました。1937年、日本通運のことを書かせていただいておりますが、今でこそ宅配便・宅急便は取りにも来てくれるし、届けもしてくれる。この時代までは、駅まで自分達で持っていき、引き取りに行く、というスタイルでしたが、日通が今のスタイルになった。当時の大手は少ない荷物は扱わなかった。そのニッチの部分でヤマトさんが業界に先駆けて、一個の荷物を皆さんのところにお届けする、ということをやりました。1957年当社も同じように始めさせていただいた。それで、今の物流形態が形成されてきました。それでは、物流とは何か、ということですが、物的流通のことです。商品が生産されてから納入されるまでの一連の流れだけではなく、保管・包装があったり、このようなこ





とを一体的に見て物流と呼んでいます。もののあり方によって、様々に変わります。3月にSGホールディングという純粋持ち株会社を設立して、佐川急便は事業会社の一つになります。急便事業を一つの会社にして、包装する会社、加工する会社を別に作ろう、と。今はヤマトさんなども同じスタイルです。佐川というと、トラックで荷物を運んでいるだけのようなイメージがあるかもしれませんが、実際には車の車体を作っている会社、保険会社があったり、旅行会社があったり、コンビニも経営しています。最近、物量は少子高齢化で減少傾向にありますので、生き残りをかけるために様々な事業形態を引いているところが主流であるということです。物流は身近にあります。今皆さんが来ている服を考えてください。もしかしたら、スーパーとかデパートで買ったとか、インターネットで買ったとかしているかもしれません。当然、商品を物流業者がメーカーさんからお預かりをして、消費者にお届けをする。そういう意味では、宅配業者が皆さんの身近に感じられるようになって来たのかなと。

それでは、環境の取り組みは何だろう、ということ。多分、ほとんど知られていないと思います。環境イベントでも様々な業種の方が出展されていますが、物流はほとんどない。逆に言うと、情報発信をしていないセクターなのかもしれません。物流はサービス業であります。ハードのイノベーション、新しい製品を作るということは出来ない会社です。それをサービスで使用する会社です。ソフトのイノベーションは起せます。また、社会的インフラを使用させていただいている。あとは、公共性が高い。こういう事業背景がある中で、幅広い環境の取り組みが必要になってきます。あとは、4万名の従業員がいる中で、労働集約型の事業であるので人が重要になってきます。こういうことを考慮したうえで、環境対策の企画立案をしています。幅広い取り組みのために、幅広い知識や経験が必要になります。だから、環境部を目指す皆さんには、どんどん知識や経験を身に付けていただくことが必要になると思います。

実際の取り組みは、環境会計、環境教育、コミュニケーション、地球温暖化防止などは一般的な企業さんと変わらないと思います。物流業の特徴と



して大気汚染防止とか、車両に関する配慮、施設、環境に配慮した輸送サービスを提供させていただいている。当社の取り組みでは、クライメート・セイバーズ・プログラムがあります。いわゆる、ボランティアとして取り組んでいることを、NGOと手を組むことでしっかりと取り組むことを表明したい、ということです。先ほど、人が重要だという話をしましたが、佐川急便環境行動を制定して、全社員が同じ目標で環境保護のために取り組みをすることを決めたのがこれです。どんなに素晴らしいハードがあっても、使い方を間違えるとちっとも環境配慮にならない。現在、省エネタイプのTVっていっぱいありますが、つけっぱなしにしていたら意味がない。正しい取り組みをしていただくために、意識を高めていただく。それでこの行動を制定している。

あとは、環境コミュニケーションが大事だということで、社内のコミュニケーションにおいては、日本オリンピック委員会の日本で唯一の環境オフィシャルパートナーです。アテネの写真は、現地に行って撮ってきました。もう一つは、東京大学医学部付属病院との産学連携もやっております。こういうコミュニケーションも行っています。物流業の全体といいましよう

## シンポジウム

か、佐川急便の取り組みをご説明させていただきました。ありがとうございました。

司会 物流というのはあまり関わりがないかと思いきや、非常に身近なものだと分かっていたかと思えます。次は、これなしでは生活はありえません。だからこそ、環境配慮の取り組みはたくさんある、ということで、東京電力の田中様、よろしくお願ひ致します。

### 東京電力の環境の取組み

田中 東京電力環境部環境交流グループの田中です。よろしくお願ひ致します。私どもの取り組みですが、非常に身近なものすぎて皆さんにとって忘れられている存在になっているようです。最初にトヨタの環境イメージが一番強いということでしたが、経営者の方から、何でこんなにやっているのに、トヨタに負けるんだということで、いつも怒られております。私の仕事は、東京電力の環境の取り組みを皆さまに紹介したりご理解いただくことを行っています。当社の環境の取り組みは多岐にわたり一言では説明し切れません。エコプロダクツに出展しておりますので、ぜひ時間をつくって覗きにきてください。ブースで説明いたします。

さて、私は環境の広報の仕事をしております。昨年からの「TEPCOのECO」のマークを使っています。双葉をモチーフにしており、「電気を作ること環境を守ることもどちらも大切」といった考えをマークに込めています。

続いて、自己紹介をします。会社そのものよりは私個人の話をしてみたいと思います。私は文系の人間です。大学卒業して最初に茨城県の竜ヶ崎営業所という現場に配属されました。そこでは電気工事の申請受付をしていました。次に板橋支社の営業に異動になりました。ここでは地域でのコミュニケーション活動を進める仕事を担当しました。地域の方々に東京電力の取り組みを理解していただく活動をしていました。

1993年には、東京電力の環境部環境総括課に異動になりました。現在の環境部には10ものグループがありますが、当時の環境部には、環境総括課と技術課の2つのグループしかありませんでした。一貫して環境の広報活動をやってきました。パンフレットやビデオを作製したり、イベントなどに出展し、東京電力の環境への取り組みを

ご理解いただく活動をしています。99年にはアメリカのワシントンにある環境NGOに派遣という形で勉強しに行きました。その環境NGOでは、3000人もの専従のスタッフがいるのですが、アメリカや世界中で、生態系に富んだ土地があると購入し、保全していく活動をしています。その後環境部に戻り、現在の環境広報の仕事をしてい



ます。環境の資格としては、環境省の環境カウンセラーやCONEという自然体験活動推進リーダーのトレーナーの資格も持っています。最近では、生物環境の仕事にもかかわることになり、ピオトップ管理士も取得しました。

東京電力の環境への取り組みを大雑把にご理解いただくのに組織図で紹介します。先ほど説明したのですが、環境部のなかにはグループは10あります。まずは、環境管理グループ。サステナビリティレポートを作っています。東京電力では、1992年から環境行動レポートとして作成し、今年からサステナビリティレポートとして発行しました。私の所属する環境交流グループでは、社内外の環境の広報活動をしています。続いて環境技術グループです。発電所を建設するときには、発電所立地周辺でどのような環境影響があるかを調査しています。そんな調査が中心業務でしたが、最近では産業廃棄物のリサイクル対策や、発電所の緑化など、環境の技術的側面の全般の業務を行っています。ここ10年間で地球温暖化に関わる業務が多くなってきました。そんな背景の中、地球環境グループ、国際業務グループ、生活環境グループ、社会システムグループがCO2の問題に取り組んでいます。地球環境グループは、国内の環境政策提言を行っています。国際情報で

は京都メカニズムを活用し海外からCO<sub>2</sub>のクレジットを購入する仕事。生活環境グループでは、生活の中でのCO<sub>2</sub>削減はどうしていったらよいかを提案しています。

さて、東京電力は電気を作るときどのように環境に配慮しているかということを説明します。まず、非化石エネルギーによる発電方式の拡大により1kWhあたりのCO<sub>2</sub>排出量は下がっています。1970年から最近では二分の一近くまで下がりました。そのためお客さまの電気の使用量が増加しても、総量としてのCO<sub>2</sub>排出量はそんなに増えていません。私達が環境に配慮し電気を作ることと同時に、お客さんの方でも電気を上手に使っていただきたいということで、ヒートポンプといった革新的な省エネ技術を利用した給湯機を開発しました。「空気の熱でお湯を沸かす」というCMでおなじみだと思います。それは、空気の熱を冷媒に取り込み断熱圧縮することで熱が生まれる原理を利用し、お風呂のお湯を沸かし上げるのです。空気の熱もエネルギーとして利用するので、投入するエネルギーの3倍以上の熱エネルギーを産み出すことができる、非常に効率の良い仕組みです。つまり、電気は、作るときも環境負荷が少なく、使っていただくときにも省エネルギー機器の利用により環境負荷を少なくすることができ、結果として相乗効果で大きなCO<sub>2</sub>削減につなげることができるエネルギーなのです。

また、私が主に取り組んでいるのが、次世代層対象の環境教育支援活動です。中心とする環境教育支援のテーマは、エネルギー分野と自然分野ですが、これはレジュメに詳しく書いてありますのでご覧ください。これで東京電力の環境への取り組みを終わりにします。

司会 身近なところにやれることがたくさんあることが分かったと思います。それでは、次のテーマに移りたいと思います。これからはディスカッション形式で行います。さて、エコ商品やエコサービスの取り組みですが、これらの舞台裏と申しますか、環境部の果たす役割ということについて伺いたいのですが、例えば環境配慮型の商品を開発するとして、この開発プロジェクトにおける環境部の役割ですが、まずは、花王の津田さん。

### 環境部の役割とは

津田 こういうプロジェクトの中での役割は、一番初めは環境に関する法的規制です。環境に関する法律がどんどん変わっていますから、それをウォッチしながら、来年はこうなるかもしれない、こうなった、などというアドバイスをして適正な方向に持っていく、というのが一つです。それから、一般市民の方がどんなことを考えているのか、ということを経験の立場から話します。我社には環境部のほかに、消費者相談センターがありまして、ここで色々な方の意見を吸い上げる仕組みがあるのですが、そこから一般市民の方がどのような意見を持っているのだろう、ということのデータがありますので、参考にしながら議論する、ということになります。

司会 法律に詳しくないといけないのでしょうか。

津田 そうですね。常日頃の活動では、法律の動向をチェックしたり、決まった法律についてど



解説する松本氏

ういうことを意味するのだろう、などを事細かに解釈していかないとはいけません。

松本 ここでは、ハードの部分ではないのですが、環境部の役割ということで考えると、当社では社員が約4万名います。その中で、環境部の仕事をしているのは、本社の8名だけです。例えば、環境に配慮した新サービス・新商品をお客さんに提供する企画立案が環境部の仕事になります。先ほどお話をさせていただきましたが、あるサービスを実際に行おうと思ったときに、企画立案ができて、ドライバーだったりお店がサービスの内容を理解して行動を実際に起さなければなりません。そういう意味で、コミュニケーションというか、環境部だけでできることはごく一部です。それを

## シンポジウム

具現化するために、例えば、営業部であったり、経営企画であったり、広報部との協力が大切です。先ほどは外部コミュニケーションの話をしてきましたが、内部でのコミュニケーションも必要になってきます。当然、新商品・新サービスを作るときに、こういうサービスがお客様のニーズとして受け入れられるかだとか、このサービスが環境にどのくらい配慮されるものなのか、ということだとか幅広い知識や経験が必要になってくる。こういうものを作ろうと思っても、自分が経験したり聞いたことがないと、本当にそれがいいかどうか、という作り手の勝手になりがちです。そうならないためにも、各部署とのコミュニケーションだとか、皆さんの動向やニーズを的確に捉えるだとか。法律もその流れの一つですし、新聞も読んでなければなりません、そういう情報が大変重要になってくる。

司会 コミュニケーションの話が出てきましたが、「コミュニケーション力」とはよく言われますが、何かが漠然としています。

### コミュニケーション力とは何か

松本 自己主張するだけではなくて、相手の話をちゃんと聞けるということ。言葉は悪いけど、妥協を恐れないということです。やりたいことをやりなさい、ということではなくて、やりたいことを、お客さんの方で受け入れてもらえないものを提案してもしょうがありませんから、その重要性を感じてもらえるか。または、相手は何が障害になっていてできないのかを聞いてあげる。要は、双方向になっているかが重要になるかなと。

田中 コミュニケーション力は、相手に届かないと意味がないので、相手の耳にどう届かせるかが重要になってくると思います。色々な環境活動をしているけど、どう相手に届いているかを気にしながらやっています。グループインタビューや世論調査を行って、常に相手の耳にどう届いているかを把握しておくことが重要だと思います。

東京電力の全社員は4万人弱います。環境を仕事としている社員は、本店の環境部には80人くらいおり、全ての店所を合わせると550人くらいになります。

司会 役割を果たしていく上で、こういった能力や知識が必要になってくるのでしょうか。

津田 うちのコマーシャルなり色々な雑誌に



熱弁する田中氏

載っているものを見ても、環境にいいということは一言も出していません。環境にいいということで宣伝はしていない。生活者の視点に立って、いかに社会的に有用か、ということ勝負しようとしているわけです。先ほどのスライドにありました開発五原則に入っているわけですが、その根底には環境にはどうかということが組み込まれているということです。環境を商品宣伝の前面に出さないことについては、今のところはそんな風になっています。

それで、こういったスキルかですが、やはり我々は製造メーカーですので、商品を開発して作っていくときにどんな環境負荷が出るのかについて、日本全国のシェアを何%取ったときに原料は地球のどこから持って来るのか、それを全部使うなら何かの原料がなくなってしまうのではないから始まって、廃棄物や排水になって排出されたときにどういう負荷があるのかを全部考えてやっているわけです。それと、それに絡む法律ですね、どこまでがギリギリいいのか、というところをせめぎあいしてやっているわけです。例えば、キャッチコピーを決めるにしても、この表現だったら法律で許されない、それならばこう表現しようとして議論するわけです。こんなふうにプロジェクトに組み込まれていると考えていただければいいと思います。

松本 環境といっても非常に幅広いと思うのですね。自然環境的なものもあれば、化学物質もあれば、地球温暖化もある。幅広い知識は、基礎の部分として必要ですね。例えば、京都議定書って何だろうとか、常識の範囲として知っておくことは大切ですね。その先は、環境と言っても、環境のどの部分についてやりたいのか、内容が変

わってくるのかなと思います。興味としては全てのことに目を向けてもらうのは当然のことですが、製造会社に行って製品を作るときには化学的な知識は必要になるでしょうし、私のところ例えば、サービスとかお客様のニーズの知識とか経験が必要になってきます。あまり漠然とではなくて、スタンダードだけではなく、自分の武器を身に付ける努力をされたらいいのかなと思います。

田中 私としては、バランス感覚も大変必要だと思っています。例えば、一つ製品を作る場合、ある一点だけ環境負荷を下げたとしても、別な部分で環境負荷が多かったりするという所がきちんと理解できるような、製品の一生でどういう負荷が出るかというライフサイクルアセスメントが理解できるようなバランス感覚が必要なんじゃないかなと思います。

司会 ありがとうございます。そうした能力を踏まえると、果たして環境部にすぐに配属されることはあるのでしょうか、ということですが。

#### 環境部への配属は1年目からあるのか？

津田 花王の場合は、環境部にすぐに入ることはありません。やはり研究とか製造の現場とか開発を一回経験してこない、まず会社全体が見えてこないと考えています。そして話にありましたように、幅広い知識の中で自分の専門性を持っていないといけませんので、その経験の視点から裾野を広げていける人を欲しがっていると考えていただければと思います。

松本 ある意味開き直ってください。環境セクションにすぐに入れないのは当たり前だと思っていただければと思います。他の部署に配属になったとしても決して無駄にはならないと強く思います。当社だと4万分の8なんです、環境セクションには0.02%だけです。よっぽどこのことがないとこの部署には来れません。ただ、実は、実際には新卒を取っていたりします。先ほど、横とのコミュニケーションが必要だと話しましたが、どうしてもその中にいると妥協するのが当たり前、解決するのが当たり前、という悪い意味での慣れが出てしまう中で、新卒の社員だと何にも染まっていない、ピュアな状況で会社に入ってくる。その中で出てくる意見というのは、私達も刺激を受けることがあります。実際に、8人の中で

は新卒もいます。そういう可能性もあります。

まずは、どこの会社に勤めたくて、その会社の企業理念はどうで、企業トップは何を考えていて、どういう採用形態をとっていて、どういう会社の中のジョブローテーションがあるのかをよく確かめて就職活動をする、ということが重要だと思います。

田中 当社の場合も、様々な事業所とか発電所を経験した上で、早くて5、6年してから環境部に就きます。ただ、松本さんが仰ったように、色々な仕組みがあります。当社の場合は人材公募や人



材マーケットがあります。ある社員は、尾瀬の自然保護活動をやりたくて社内の人材公募制度に手を上げました。あと一人は、環境部に来ている人ですが、人材マーケットに登録して、面接のうえ環境部に異動になりました。これは、自分の専門知識を売って、それを環境部を買うというものです。その人は環境報告書を作っていますが、環境をネタにお客さんとのコミュニケーション活動を進めたいと希望しています。

司会 新卒では配属されないということですが、環境部ではなくても環境に関わる方法があれば教えていただきたいと思います。



### 環境部以外の環境の仕事とは

津田 私ども会社の製品を作って流通物流させて売っていく流れの中で、全てのところに環境が関わっているという認識が一番いいのではないかと思います。何かの部署でやる時に自分は環境をこういう風に考えてこういうプレゼンテーションをやりたい、というようにしていると、モロに環境に関わってくるわけなので、そう考えるべきではないかなと思います。例えば、仕事に直接じゃなくても、今私どもの方では「花王みんなの森づくり」活動をやっていますが、つめかえ商品買ってもらって、売上金のどれだけかを木を植えているような市民団体に最高100万円ずつ援助している。それに参加してボランティア活動で一緒に木を植えることも環境のことに関わるということですね。例えば、販売の人がお客さんと一緒にやればもっといいなという思いもある。自分の販売活動にもそれが生きてくる、と考えればいいのかなと思います。その他開発などの活動にも当然環境の視点が入っていますので、改めて言う必要はないかなと思います。

松本 今の津田さんのお話と同じで、どこのセ

クションにおいても環境に関する事は必ずできると思います。特に我々のようなサービス業ですと、先ほど言いましたが8人で企画をしていますが、実際には他の部署の協力が無いと絶対に出来ない。そこで、そのセクションの考えを聞いたりしますが、そこには必ず環境のキーがありますので、そこで十分環境の仕事もできると思います。それでは、環境セクションに配属されなかったから、環境のセクションに行く場合には、関心がある人は社内公募制度がある会社さんもありますし、様々な機会、嫌味にならない程度にやっぱり自己アピールすることです。どんなに素晴らしい能力や環境に対する思いや知識があっても、それを評価する人が気付かなかつたら、そのまま終わってしまいますから。かといって、あんまりズケズケ言うのを嫌がる会社もあるし、逆にそういうのが大好きだという会社もあります。その会社の風土や流れを読み取って、どうすれば自分の思い通りの部署にいけるのかをちゃんと考えて行動すれば誰か見てくれるだろうと思います。

田中 松本さんの仰るアピールする力は非常に大切に、結構上の人は見ているみたいです。人事

評価制度は会社にはありますが、その中でアピールすることもできます。ちなみに、私が10年前に来た時は環境という項目はありませんでしたが、最近では人事評価の中に環境が入ってきました。それから、ことあるごとに自分のやっていることのアピールを上司にしていくことで、環境部への異動がかなうようになっていきます。ただ、アピールするだけではなく実際に行動しなければなりませんね。自分の仕事の中で出来ることといえば、資源の有効利用があります。例えば、東京電力では、紙・水・燃費・電気、身近な資源を削減しようという取り組みをしています。例えば、紙の使用量は5年間で半分にするといった取り組みをしています。裏紙はもちろん、インクが消える紙なども使っています。そういう地道な活動の中に自分がやっている環境の取り組みをしっかりとアピールしていくことが大切なんじゃないかなと思います。身近な取り組みの中で、環境に貢献できる取り組みはいっぱいありますので、ご自分のセンスで見つけていただければと思います。

### 環境部のやりがいは？

司会 最後に、結構辛いこととか環境部って煙たがられることもあると聞くのですが、それでもやり続けて行き続けられるやりがいと充実感、それから、学生へのメッセージを絡めてお願いしたいのですが、よろしくお願いします。

津田 石の上にも3年というか、やっていくとだんだん好きになってきます。先ほども仕事の話が出ましたが、色々な部署と関わることが出来ます。例えば、2、3年前にインターネットに毎月環境コラムを載せていたときの例ですが、社内のライターに書いてもらおうとします。それには、環境部っていうところのイラストを載せていきましようといったアイデアがでたりします。そのライターはほとんど環境のことを知らない。人と話をしながら、こういう風を書いて下さい、といってコミュニケーションをとる。デザイナーの人と、私の性格だとか常日頃の仕事などを話しながら、見合った絵にしたら酒を飲んでいる絵になってしまったのですが、そういうことをしてきて、例えばそれを、2年分をまとめて冊子にして、社員教育に使うとか・・・そういうこともできます。そうすると、人とのつながりがどんどんできてくる。それを大切にすると面白いですね。もう一つ

は、自分の趣味と環境がどういう風に結びつけて考えることができるかだと思います。それを重視してやっていただければいいかなと思います。

松本 ある種、恋愛みたいなものかなと思います。まあ、好き同士だから付き合いますが、何かのきっかけでけんかをすることもありますがし、相手のことが多少なりとも嫌とか感じることもあると思います。それで終わってしまうのかどうか。会社も同じです。自分の会社や仕事を好きになることが一番です。そうすると、苦勞が苦勞と感じなくなる。それが非常に大きいんじゃないかなと。幡から見ると非常に大変なことをやっているように見えても、本人は全然苦に感じていない、そういう風になれると思います。大事なものは、今勉強して知識をつけることよりも、実際に会社に入ってから、勉強の繰り返し、努力の繰り返しです。今まで勉強したことが全く役に立たないこともあります。会社に入ってから、いかに勉強することが重要になる。自己満足にならないように、自分が頑張っているつもり、つもりにならないように活動していただければと思います。

田中 大学の勉強とか、会社に入ると使えないのかなと考えているかもしれないのですが、実はそういう無駄な勉強こそが仕事の深さを生むのじゃないかなと思っています。ですから、そういう教養、一見無駄に見える勉強でもしっかりとやっていただければと思います。

これからは社員一人一人の個性が大事になってきているので、一人一人がテーマを持って仕事を進めていくことで、会社にも利益にもなるし、自分の行き方にも利益になる取り組みを進めて行っていただければと思います。会社は単に仕事をするだけじゃなくて、自分の夢を実現するためのシステムだと思って、環境でなくてもいいのですが、自分の夢を実現させるために、会社を上手く使う人になっていただければと思います。

司会 私からも、一つだけ。好奇心と行動力があれば、興味の幅と人脈がどんどん広がって生きます。是非、これを忘れないで就職活動をしていただければと思います。

さて、パネラーのお三方には、環境の仕事はどこにいけばいいのか、どうやっていいのか、このギモンを一緒に探っていただきました。それらの答えがみつかる一助となれば幸いです。

ありがとうございました。

# アンケート集計結果

当企画に点数を付けてください(100点満点)

83.3点(回答数90名)

## 総論分析

非常に高い点数を頂きました。ありがとうございました。

点数の理由を分析したところ、様々な組織で実際に現場で働いている社会人と話が出来たこと、そのような機会を提供していることへの満足度が高いようです。

また、話の中で価値観が広がったり、「環境就職」の具体的なイメージが見えてきたりと、主催者側のねらいを十分に実現できていることも分かりました。

一方で、16.7点分のマイナス評価で最も多いのが、時間が足りず話が聞けなかったことでした。1日のみならず2日間の開催を希望する声も多くありました。

今回は、2つの会場が離れていたことによる不便さについての苦情も聞かれました。こちらは、今後考慮したいと思います。



## 「良かった」理由

環境関連会社の現場の方の雰囲気を知ることができました。直接企業の方とお話が出来たのでとても良かったです。企業の方に詳しく話を聞けたから大変参考になった。自分を見つめなおしたい。三者三様の企業の環境への考えを聞いて参考になった。自分の知らなかった企業もあり、新たな面が見られた。分野が広がって良かったです。貴重な意見が聞いて良かった。社会人の方の色々な意見が聞いて参考になりました。色々お話を聞いて刺激になった。とても幅広い層の方からお話を聞くことができました。環境に対する視野が広がったから。環境関連事業で働く方と話せる数少ない機会を提供しているから。少人数でじっくりとお話を伺えた。環境就職に対する視野が広がった。大変自分のためになったと思うから。具体的で分かりやすく実感が得られた。実際に働いている方に話を聞くことで、「環境就職」が具体的に見えてきたり、参考になった。企業の方と話をできる機会はありがたい。会社それぞれの環境意識の高さを知ることが出来ました。こういう企画があるという時点で凄と思った。生活の意外なところで環境が関わっていることが分かるなど、視野が広がりました。企業の人事以外の人に会えたのは良かった。環境だけに限らず、仕事に対する意識が高まった。本当に環境分野で働く方の話を聞いて感動しました。企業が実際にどのように環境対策を行っているのかを聞いて良かった。カウンセラーの人は一生懸命話してくれました。

## 「悪かった」理由

対話の時間が足りない時もあった。もっと回りたかった。一部の時の椅子の間隔が狭かったです。午前中の企画が少し眠かった。2日間ほど開いて欲しいです。受付・進行など全般が準備不足な気が。場所がもう少し広いほうが嬉しいです。事前にカウンセラープロフィールがもらえたらうれしい。希望する職種の方が少なかったため。午前部の企業は、ほぼ同一の切り口で環境に関わっていた。もっと様々な切り口で環境と関わっている企業があるはず。会場がちょっとわかりにくい。移動がちょっと大変。学生も飲物を飲めるようにして欲しかったです。もっとたくさんのお話を聞けたらよかった(第一部)遅れてきた人が後から席に加わりやすいような雰囲気が出来ていなかったところ。後半はとてもよかったが前半はいまいち。個人のプレゼンが少し全体の流れに結びつきにくかった。(一部)カウンセラーがいないところがあったのがマイナス点。ちょっと部屋が狭かった。自分のやりたい仕事が見つからなかった。もう少し多くの業種のお話を聞きたかった。会場が分かりにくく、離れすぎている。後ろの方に座ったので、パネラーやパワーポイントの画面が見にくかった。午前がちょっといまいち分かりにくかった。聞いたかった人がいなかった時があったから。途中から話に参加していいのかどうか、仕組みが良く分かりませんでした会の後に懇談会などを作ってくださいませんか。自由な感じは凄く良かったが、何か統一感に欠ける点があった。シンボジウムに少し不満、話の特徴を感じなかった。



## 印象に残った言葉・話・キーワードは何ですか？

参加者の皆さんには、シンポジウム・相談会において、様々な「気付き」を持ち帰って頂きました。アンケートからは、特に当企画の主張の1つでもある、「環境の仕事はどこでもできる」ということを理解していただいたようです。また、「専門ではなく、様々な分野の知識を得る」「将来どうしたいかを見据えて、今やるべきことを考える」など、キャリアの考え方にとって貴重なアドバイスも得ているようです。

ほぼ全ての就職活動生が「情報はインターネットから

得ている」と答えていますが、就職活動において、こうした「ナマの社会人と話をすること」はとても重要です。また、社会で必要とされている「コミュニケーション力」も、様々なヒトと話す中でしか磨かれません。

総論において、「もっと開催して欲しい」、「時間が足りない」などのご意見も頂きましたが、直接会う機会が増えれば、こうした「目にウロコ」なアドバイスを受けることが出来ます。是非ともOB訪問を積極的に行うようにして欲しいと思います。

## シンポジウム

相手の耳にどう届かせるか。会社に入ってから日々勉強、一方的に話すだけでなく、相手の話も聞く コミュニケーション、環境部だけでなく、他部署との協力で環境を考える。どの業種職種でも環境に携わることは出来る。信念を持つこと。環境部に配属される確率は低いが、環境の意識を持っていることが大切と言うこと。自分の仕事を好きになる。環境に対する自分なりのテーマを持っているといい、どんなことでも環境と結び付けて考える。どの部署にいても「環境」に携われていること。成長する人を求める。コミュニケーションの重要性、省エネテレビを売り出しても、つけっぱなしにしては意味がない。消費者の意識を同変えていくかも企業の責任。どのセクションでも環境に関する仕事はできる。無駄な勉強ほど仕事の深さを生む。どんな仕事でも環境につなげることができる。これからの会社は個人個人のやりたいことも可能になってくる。今まで女性として差別を感じたことがなく、バリバリ仕事が出来た。内部コミュニケーション、コミュニケーション能力・・・双方向で人を説得。考え次第で、どの仕事でも環境には関わられる。英語がたくさん会話に入っていて、日本の企業で行われている環境対策は海外から取り入れているものが多いのかなと言うのが率直な感想です。人とのつながりが大事、熱意を持ってアピール。自己満足で終わらない「頑張る」、無駄な勉強が仕事を深くする。バランス感覚、どの部署へ配属されても環境に関わっているという認識が大切。会社を自分の夢を実現させるためのシステムととらえる。会社は自分の夢のステージである。

## 相談会

苦労したものは全て自分のコヤシ！無駄な勉強はない。一番でなくてはいけない。なんでもやってみたらよい。企業の環境への取り組みはまだまだ。環境ビジネスの役割、「やりがい」と「きつい」は紙一重、環境のスペシャリストである必要はない。コストよりも環境保全を考えてるところがあった。色々なところを見なさい。特技と環境問題を組み合わせる。専門的な知識は入社してから勉強できる。NPOも金儲けをしていい。20代に意識とスキルを叩き込むことが大切と言うこと。時代を先読みすること。世界中を旅して見聞広げよう。人生を決める選択は一回じゃない。就職するために必要なことごと、やりたいこと、できること、やらなければならないこと。学校で勉強したことがそんなに仕事に生きるわけではない。10年後の自分がどうしていいのかを考え、それに向けて行動するといい。環境の仕事は色々なところできる。むしろ、意識の低いところ、対策の進んでいないところで環境の仕事をするのも大切。視野を広く持つ、自分が何をしたいか、何が出来るかを突き詰めて考える。大学院生を採る理由は論理的に考える能力と説明とかである。障壁はどこにでもある。環境問題の原因は分かっているが、具体的に改善していかなければならない。企業が求めている学科が違ってても、自分がこれをやれるということのアピールする。考え続ける力が重要。環境はビジネス。歴史の本を読んだ方がいい。色々な人と話し、新しいモノを得る。自分の興味を持続していくこと。自分を表すキーワードを持つ。環境とエネルギーと経済の成立を目指す。環境は企業にとって手段。何でもやります、という姿勢が大切。



## アンケート集計の結果から読み解く、 環境の仕事を目指す大学生の“不安”

アンケートでは、参加者に「環境分野の就職をするにあたり、一番不安に感じていること何ですか」という項目に回答していただきました。その中から、就職活動生が不安に感じていることを5種類に分類し、それぞれの不安に対する考え方のコメントを加えました。

### 1 専門知識についての不安

例：自分に専門がないこと。文理共通学科のため理系知識が乏しく、就職の幅が狭くなるのではないかと。学部卒でも大丈夫なのかどうか。今の自分の知識で仕事ができるかどうか。自分のいる学科が環境系ではないこと。自分が文系であること院卒のほうがいいのかどうか。大学で学んだ知識がどう役立つかはっきり見えてこないところ。

考察：環境問題の専門知識・資格、あるいは、環境系の学部・学科ではないことに対する不安です。学生は、企業は専門知識を持った学生を採用したいと考えているようです。しかし、本当にそうでしょうか。様々なアンケート調査を見れば分かるように、企業が学生に求めているのは、コミュニケーション能力や熱意、学習する姿勢などです。そもそも、仕事の多くでは新卒に「知識」を求めています。どこの誰が、企業が専門知識を求めている、と言っているのでしょうか。

従って、専門知識や資格がないからといって、何も気にすることはありません。資格の勉強をする時間は、外に出てOB訪問を行う時間に当てるべきです。

### 2 入社してから、やりたいことができるのか、についての不安



例：入社してすぐには環境職が出来ないこと。本当に自分がやりたいこと仕事を出来るのか。希望の職務内容に初めから就けるか？

考察：やりたいことをするためには、それをするだけの能力や経験が必要になってきますから、まずは会社にそれを認めてもらわなければなりません。「初めからやりたいことがやりたい」というのは、野球の初心者が「俺を四番バッターにしてくれ」と言っているようなものです。また、仕事とは本質的に「やりたいこと」をやるのではなく、会社であつたりお客さんの「やりたいこと」に応えることです。

ただ、やりたいことがあるなら、どんどん提案すればよいと思います。熱心に自分を売り込んでいけば、入社してすぐに環境に関する仕事に採用してくれる可能性はあります。しかし、言われたことだけをこなしていたり、ただ待っていても、基本的に1年目の社員に、環境に関する仕事を任せる会社はないと思います。また、「今までに1年目から環境部への配属がない」という会社であれば、その過去に嘆くのではなく、頑張っただけが第一号になればいいのです。「ルールがなければ、自分で提案して作る」くらいの気持ちが必要です。



### 3 環境は利益に繋がりにくいという不安

例：なかなか利益に繋がりにくいこともある面。環境のために働くのか、企業のために働くのか、というジレンマ。本当に世の中のためになるのか、良く分からない。

考察：お客さんのニーズに応じて対価をもらうことがビジネスですから、「お金を出してでも環境をよくしたい」という人が増え、また、それらの人のニーズに応えるビジネスを展開している会社であれば、必ずしもジレンマは起きません。また、470万もの企業がある中で、経営方針に共感する会社が全くないのかどうか。国内の企業数で言えば1%にも満たない大手企業ばかりを見ていませんか。中小企業やベンチャー等も研究をして、自分に合った会社選びをしてみてください。

もし、それでもなかった、という場合には、環境のための活動は、例えば仕事外にボランティアで行うなどを考えても良いかもしれません。自分なりの関わり方は幾らでもありますので、それも探してみると良いと思います。

### 4 採用口が少ないのではないが、収入が少ないのではないかと不安

例：募集が少ない。就職先があるか。環境に熱心に取り組んでいる企業が少ない？収入が安定するか。

考察：採用が少ないと考える前に、「環境の仕事ができる会社」とは、どのような会社なのかをじっくりと考えてみる必要があります。「環境」就職・進路相談会in東京では、2002年度より、参加者に「環境問題に取り組んでいる企業」と聞いて、どこをイメージしますか？というアンケートを行っています。毎年、トヨタ自動車の環境イメージは群を抜いていますが、果たしてトヨタ自動車に就職することが「環境就職」なのでしょうか。シンポジウムのパネラーやカウンセラーが口を揃えて言うように、

「環境の仕事」はどの会社でも出来ます。「どここの会社に行けばいいのか」ではなく、「どんな会社でも、どのような態度で仕事をするか」という自分自身の問題です。

また、収入が安定するか、については、環境の仕事はどんな会社でも出来るわけですから、収入の安定した会社を希望すればよい、ということになります。

### 5 環境分野が広すぎることへの不安

例：環境への関わり方が多すぎて、説明されてもピンと来ない。だから、自分がどういう関わり方をしたいのかも見づらく、環境の分野が広いので、どのような仕事があるのかを把握しきれず、考えが知ろうとするほど漠然としてしまうこと。

考察：環境問題は多岐に渡り、また、「関係のない企業や分野」はありませんので、関わり方については悩むところです。そういう場合は、いったん環境のことを考えないで進路を考えてみてください。環境以外でやりたいことを探してみます。業種や職種でも、趣味でも何でも構いません。そうしていくつかを考えてみたときに、今度はそれと環境を関連付けてみる。環境から考えるよりも、何かと環境を結び付けて考えてみると、関わり方が見えやすくなると思います。



それぞれの不安は、実は環境業界に限らず、全ての業界において少なからずあるものです。「入れば絶対安心」、「やりたいことは何でもできる」などという職場は存在しません。その状況において何よりも必要なのは、自主的に動くという姿勢です。見えない不安を職場や社会のせいにするのではなく、自らが動いてチャンスをつかんでください。成功する人はどんな職場でも成功するものです。

## 社会人カウンセラーのアドバイスから分かる、 “新卒への期待”とは

社会人カウンセラーに「即戦力とは何ですか」という質問をしました。その結果をまとめ、分析をした結果を、以下の5つのカテゴリに分類しました。

### 自分の心構え

自分自身の社会人としての心構えに関するものです。代表的なものには、情熱、意欲、前向きさ、ポジティブシンキングなどがあります。「単なるカネを稼ぐ手段」として考えるのではなく、また、「つまらない」と思いがちな作業でも、自分のやり方次第で面白くする、という仕事への熱心な姿勢が重要です。

また、待ち組みにならない、チャレンジ精神、自主性が必要など、指示待ちをするのではなく自らが積極的に行動し、企画を提案すること等を求めています。そして、忍耐力、粘り強さ、くじけない心など、失敗したり叱られてもメゲないメンタル・タフネスが必要です。

### 他者への心構え

社会に出てからの他人に対する心構えに関するものです。「やりたいことがある」「早く成果をあげたい」などの理由で、他人への配慮や気配り、礼儀、優しさを忘れることがあってはならない、としています。「自分だけが得すればいい」とか「自分だけが儲かればいい」という精神は、特に環境の仕事を目指す人にとっては、あってはならないものです。

また、まずは「会社の仕事を覚えよう」という謙虚な気持ちと、一つ一つの仕事について、分からなければ素直に先輩や上司に聞く姿勢が重要です。それぞれの組織にはそれぞれの仕事の仕方と決め事があるため、まずはそれを覚えなさい、ということです。

### 自分に対して必要なスキル

自分自身に対する、身につけておくべき能力に関するものです。専門知識が必要であると書いた方は一人もいらっしゃいませんでした。その代わりに、自己管理や体力、継続的な学習力など「自らを律する力」を挙げた社会人が多かったようです。また、特に環境の仕事をしたいと考えている人に必要なのは、環境だけではない、多面的な視点、バランス感覚などです。環境問題がなぜ起きるか、については、まさに環境の視点は必要ですが、解決については、国際問題や政治・経済など「環境以外の視点」が必要になるからです。

更に、問題発見力、論理的思考力、情報収集・分析力など、知識社会において重要なスキルを挙げた方が多くみられました。繰り返しますが、これらは「知識」ではありません。現場の中で磨かれていくものであり、本を読んだり大学で習って身につくものではありません。

### 他者に対して必要なスキル

他人に接する際に身につけておくべき能力に関するものです。まず、ビジネスマナーや社会的な常識は言うまでもありません。他者に対して迷惑をかけない、というのが仕事においての基本中の基本だからです。加えて、自分の考えを相手に正確に伝え、相手を説得するプレゼンテーション力、逆に正確に聴く傾聴力も重要で、これらをひっくるめて「コミュニケーション力」と呼べると思います。人と関わらない仕事などありません。組織に入れば、一人でする仕事というのほとんどありません。

また、様々なプレイヤーが関わってくるのが環境の仕事の特徴でもあるので、コーディネートや利害調整力も必要になります。

### 全てのカテゴリに関係する能力は

これら全てに関係する能力は、実行力、実現力、行動力、好奇心などです。まずは積極的に全てのことを吸収しようという姿勢、どんな困難があってもゴールまでたどり着く「実現力」は、「何かの能力や心構えがあればいい」というより、その人の志の高さが決め手となります。別な言葉で言えば、目的意識と覚悟です。一方で、間違えたと感じたら、素直に認め考えを修正する柔軟性も非常に重要です。

最後に、何度も指摘をしますが、社会人は、新卒の社会人に、専門知識や資格が求められているわけではありません。そして、これらの能力は日ごろの意識次第で磨くことができます。意識するかしないかで、全く違います。また、他者への心構えやスキルは、文字通り、様々なヒトと関わることにより磨かれていきます。

是非、これらのことを意識してみてください。



## カウンセラーからの メッセージ

50名以上が参加した、当企画の社会人カウンセラーからの就職活動をする皆さんへのメッセージを集めました。環境就職を目指す学生の皆さん、これを読んで頑張ってください。

環境問題は幅広く、考え方は人それぞれです。いろいろな人のいろいろな意見を聞いて、思考の幅を広げ、自分自身の意見をしっかりと持てるようになってください。

バランス感覚を大切にしつつも、いつも自分なりの考えをもって仕事に臨み、社会を変えていく原動力になっていただけたらとおもいます。

具体的な「やりたいこと、やってみたいこと、夢」はありますか？仕事ではこのことが自分の大きな原動力になり、武器にもなります。就職は人生の一部の重要なポイントです。あせらず、あきらめず、自分の信念を貫いてください。悩み、考えたことは決して無駄にはなりません。ファイト！

就職活動は、自分の生活を紐解き、その紐をたどった先にある企業・政府・NGOを希望する人が多いと思います。

しかし、自分のやりたいことは案外生活の紐につながっていない場合が多いことも事実。現在あなたの紐につながっていない仕事が、あなたに一番大切な仕事かもしれません。

そもそも「環境ビジネス」という市場カテゴリはありません。環境を切り口とした旧来からの「調査・分析」があり、「機器製造」があり、「工事」があり、...、etc、これらの便宜上の総称です。だから「環境ビジネス」は混沌としています。ターゲットが入り組んでいるのです。それでも「環境対策」にコスト負担する人たち、「環境」で既存事業の付加価値を高めようとする人たち、は確実に増えています。この中から「本当にやりたいこと」「やるべきこと」「できること」を明確に探し当てるのが大切です。

若い皆さんは、知らないことは恥ではありません。失敗を恐れずに何事にも一生懸命取り組んで下さい。その姿勢は、誰かが必ず評価してくれます。

「環境」をライフワークにする、という熱い意志を企業という組織体の中で貫き通し続けるには、様々な障害や困難を乗り越える必要がある。気力、体力、精神力、素早い気持ちの切替（失敗やダメージを引きずらない）等々...それから、「鵜呑みにせず自分で必ず検証すること・魂を売らないこと・感謝の気持ちを忘れないこと」の3つを心がけて欲しい。

何にでも興味を示し、自分から進んでやる姿勢。これが一番大事だと思います。そういう人はチャンスを多く与えてもらえるし、絶対伸びる。

環境関係の仕事は企業の社会的責任（CSR）の一部であり、大変重要なものです。法務や会計等直接環境に関係なさそうなものまで、幅広く勉強なさるといいと思います。

仕事は自分を社会の中で活かす一つのあり方であり、ボランティア活動、市民活動もある意味では同じ役割を果たすと思います。組織の中で仕事をする事になれば、必ずしも自分がやりたいことに携われるわけではありません。自分がやりたいことにどう関わり、どう実現していくか、また、自分にとっての仕事・会社の位置づけをどう考えるか、柔軟性と広い視野を持つと良いでしょう。

“ほどほど”に過ごすところと“とことん”やる所、このバランスが難しい。永遠のテーマだと思います。

環境は、どんなビジネスにおいても適用、活用できるものだと思うので、このエコプロダクツ展を大いに活用して、自分なりの何かを得て欲しいと思います。

「答えは常に一つではない」ということ。固定観念に縛られず周りの状況によって、臨機応変に最善の方策を考える習慣をつけるよう心がけるとよいと思います。

何がしたいかと何ができるかを常に考えると良いと思います。そして、その差を埋められるように常に謙虚に努



## カウンセラー

力する姿勢が必要だと思います。環境の世紀といわれる今、環境をビジネスとして確立する大きなチャンスだと思います。ともにがんばりましょう。

環境に個人的に関心がある事と、企業内で環境活動を進めることにギャップはつきものです。(がっかりしない事)環境関連専門の会社でなくても、環境の部署(仕事)は殆どの会社にあるし、これからの時代、一社員としても関わらざるを得ません。

企業人もウーン前は、学生でした。恐れず、気負わず気楽にお越しください。

夢を持ちつつ現実とのバランスを取り、一步一步進んでいきましょう。

環境と言っても、様々な分野があり、幅広くニーズが、あります。

20歳ちょっとで一生の適正を見つけることはとても難しいと思います。だから、いろいろな会社を調べ、自分のワクワクする会社を直感で判断し、縁があって入社することができたなら、そこでまずはがむしゃらに頑張るべきだと思います。がむしゃらにやっていたら、誰かが見てくれて、必ず素晴らしいチャンスを与えるからです。

自分が生き生き働ける職場を見つけれられるといいですね。それを見つけるのが難しいのでしょうか。こんな人になりたい、という上司がいるというのが職場選びのポイントかもしれません。

環境問題以外も含め「社会をよくするには何が必要か」という自分なりの考え方がある人は強い。

就活はいろんなことがあると思いますが、あせらずいきましょう。

自分をよく分析して下さい。自分のoriginはかならず自分の過去を見つめ直すことで発見され、将来を見つめる起点となると思います。変に飾っても、周囲の人にはすぐばれちゃいます。

仕事をしていると、立場が変わるとすること、言うことが変わってきます。今の気持ち、自分が求めるものを大切にしてください。

学生時代の友人や先輩、お世話になった先生とのつながりは、情報交流ネットワークとして重要。自己啓発にもつながります。卒業後もこまめに連絡をとっておくと、思わぬ発見があるかも。

新聞を毎日読む習慣を！今日の一面の記事が顧客との話題に上ることが多々あります。

海外関連の仕事を希望する方は語学力(特に英語)を磨いて。ネイティブレベルの語学力があると、仕事の幅が広がります。

環境分野の知識よりも原体験や問題意識を身につけることが重要です。

今を生き、今を学んでいますか？

人生には数知れない出会いのチャンスが転がっています。人との出会い、本、学問、趣味。また仕事との出会いも人生で大きな意味をもつはず。「出会いを逃さない」-自分が待ち焦がれた出会いのチャンスが巡って来たとき、それを逃さずに受け止めることができるよう、自分を磨き続けて欲しいと思います。

学生時代は、ひたすらインプットできることは、何でも行い、幅広い友達とのネットワークを構築することで、社会人になった際の伸びに大きく影響するのでがんばってください。

"まだまだ自分も未熟ですが、仕事を通して感じたことは、自分が今何をすべきか考え続けること、今後自分が、どんな仕事をして、どのようなキャリアを身につけていきたいか、常に考え続け、ビジョンを持ち、意思表示が出来ること。" この2つが非常に大切です。たとえ新入社員でもそういった意識を常に持ち続けている人とそうではなく漠然と仕事をする人ではステップアップの機会そのものが異なります。長い目で見るとそうした人材は会社にとってもプラスになり、大切な心構えだと思います。"

私は、環境に貢献できる仕事がしたいという「おもい」だけで、仕事を探しました。

様々な部署の仕事を経験し、気づいたことのひとつに、一企業が持続可能な社会に貢献する組織として機能し続けるためには、様々な仕事があるということです。

環境に関する勉強や活動をするとき、常に、すべての環境問題の解決策のどのへんに位置するのかを意識。

大学の外で、ボランティア活動などに積極的に参加して、コミュニケーション能力アップ。本を読む！(私は、活動ばかりしてて、読めなかったの)

環境の仕事をしたが、何をどうしたらいいかさっぱり分からない人は、自分がやりたいと思う仕事の業界に、いまだのような企業が、どのような形で係わっているかを理解してください。そうすれば、理系でも、文系でも、どのポジションで生かされる仕事自分が自分のできるのか、わかると思います。



# 緊急速報

2006年冬  
全国4地域で開催！

東京会場：開催決定！

12月16日「エコプロダクツ展」内

名古屋会場：

12月 開催予定！

大阪会場：

12月 開催予定！

九州会場：

12月 開催予定！

## 社会人カウンセラー・スタッフ募集！

「環境」就職・進路相談会では、カウンセラーを募集しています。  
詳しくは、エコ・リーグもしくは「環境」就職・相談会ホームページまで。

[www.eco-2000.net](http://www.eco-2000.net)  
[soudankai.eco-2000.net](http://soudankai.eco-2000.net)

# STAFF

実行委員長	藤井 将志（早稲田大学4年）
副実行委員長	小清水 宏如（団体職員）
企画・運営セクション	小島 泰志（慶應義塾大学4年） 吉田 健太郎（早稲田大学3年） 彌勒 祥一（横浜国立大学4年）
カウンセラーセクション	池 千奈津（早稲田大学3年） 飯塚 知子（横浜国立大学大学院1年）
広報冊子セクション	今井 寛（慶應義塾大学3年） 大越 孝昭（早稲田大学3年） 信太 英利（早稲田大学3年）
渉外セクション	内田 有紀（早稲田大学3年）
ホームページ	神代 沙紅良（会社員）
全国統括・関東報告書作成	小林 功英（団体職員）
エコ・リーグ担当理事	川島 悟一
当日運営	野口 朋子 井深 麻理

## Special Thanks

エコプロダクツ2005事務局（長谷川様）、広告社（霞末様）、  
パネリストの皆様、カウンセラーの皆様、えこみゅにけーしょん  
スタッフの皆さん、参加者の皆さん

### 主催団体エコリーグとは

エコ・リーグは、環境問題について考え、話し合いたい、  
何かしたい、情報を得たい、等、様々な想いをを持った  
人々にとって、探し求めるものを見つけることのできる  
「場」であることを目指し、活動しています。

### 「環境」就職・進路相談会 実施報告書

2006年3月30日発行

編集責任者 小林 功英

問い合わせ エコ・リーグ事務局

URL: [www.eco-2000.net](http://www.eco-2000.net) MAIL: [eleague@mx.mesh.ne.jp](mailto:eleague@mx.mesh.ne.jp)